<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>タイトル</td>
<td>続・ビザンツ帝国における大土地所有の問題 — プラクテイカに現れた大土地所有の経済構造</td>
</tr>
<tr>
<td>著者</td>
<td>渡辺 金一</td>
</tr>
<tr>
<td>出版</td>
<td>一橋論叢 38(3): 255-276</td>
</tr>
<tr>
<td>発行日</td>
<td>1957-09-01</td>
</tr>
<tr>
<td>部門</td>
<td>部門論文</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/3904">http://doi.org/10.15057/3904</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
続・ビザンツ帝国における大土地所有の問題

一 ビザンツ帝国における大土地所有の問題
二 ビザンツ大統領の構造
三 ビザンツ朝の史料の内容
四 ビザンツ大統領の史料的性質
五 ビザンツ朝の史料の内容

私の今回の発表は、昨九五六年五月の社会経済史学
会名古屋大会で発表し、再版論文第三十八巻第二号（九
六年八月）に掲載した論文の繰り返しに原ります。私はその
際、ビザンツ帝国の封建化の開始は十一世紀に置かれる

五六年八月に掲載した論文の繰り返しに原ります。私はその
際、ビザンツ帝国の封建化の開始は十一世紀に置かれる

五六年八月に掲載した論文の繰り返しに原ります。私はその
際、ビザンツ帝国の封建化の開始は十一世紀に置かれる
こうした数値が存在した。
は俗界貴族という所屬先の相違点、及び所領がプロノニアアとして保有されていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法の相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、という法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法の相違点に関し、すでにふれられていたか、いう法的相違点に関し、すでにふれられてい
世帯主の氏名が記され、これに続いては家族員が世帯主と同一の績柄及び自身の名前（氏名）を以て記される。家族の人数は必ずしも人数を数える数だけであるし、世帯主であったり、家庭中の人を示すりとは別に、平均数は各戸で示されている。な

この数字は、現存の数点のソラクを比較して、世帯主の同一の家族数、月と変っているものがある。それに対して、家族を一戸に取扱う、村で平均を示すものである。

世帯主の氏名が記され、これに続いては家族員が世帯主と同一の績柄及び自身の名前（氏名）を以て記される。家族の人数は必ずしも人数を数える数だけであるし、世帯主であったり、家庭中の人を示すりとは別に、平均数は各戸で示されている。な

この数字は、現存の数点のソラクを比較して、世帯主の同一の家族数、月と変っているものがある。それに対して、家族を一戸に取扱う、村で平均を示すものである。
農民の所有権の対象となっている農民により買取され

特に金として（p. 167, D. 21, RX 220）など

262
三十四年にわたるいずれのプラクティカにおいても、姿を現しています。

以上の場合、基本税（基本税率）に対する補足的諸税（如く處)、かかる課税制度の一部（後述)にふれるわ

もピザンツ的な財政租税制度の一端（後述)にふれるわ

が、オストログスキーは、これらいずれも貨幣

で支払われる基本税、補足的附加税、のなか

にピザンツの諸税の

度、もともとピザンツ帝国における貨幣経済の創造

にピザンツの諸税

じ、ピザンツ帝国とは逆に貨幣経済が優勢だった結果,

の草刈り、同じ年間日の菊の穂入れのためにの労

手の全系は、ピザンツ帝国におけるこの補足的諸税の複雑な全

事九の銅労、同じ年間日の菊の穂入れのためにの労

が、オストロゴット王国において、ピザンツの諸税

で支払われる基本税、補足的附加税、のなか

にピザンツ的な財政租税制度の一端（後述)にふれるわ

が必要な税を負担するのに勞

を提供すべき義務を負ったのに、他では総ての貨

幣換りとして国家に対し年本（_denga）の租税換り義務を

を課せられたのぎ、即ち貨幣経済の優勢だったセルビ

の貨幣租税体系が適用をみた個々の地域がいずれも貨

幣経済の現実に行われる地域だった。とは必ずしも言え

ますまい。事実、カルディエク半島も相場が立っていたこ

イペロン修道院領について、デルガドは次のように考え

発達という事情のもとでは、農民は自ら地方市場において

されて生産物を売却し、その代金を以て支払にあたつ、

もって生産物を売却し、その代金を以て支払にあたつ

と考えるところはできない。他面農民には他に支払の手段として

では自己の生産物を存せず、手持つ現金の如きがあった

市場に於て貿却し、賃上げ額から租税を納納してもら

いうという話はしたまではないのか。と。

以上の様々な部分に次いで、ブラ

285
3月の服役日を示すのはRKG 5.21であり、一年二日となっている。オーストロールスキーの比較研究によれば、具体的な服役日数を示す一連のプラクティカで、若干の例外を除き、服役日数は一年二日となっている。鬼も角

また、当時の服役日数を月一日乃至三日だったわけではない。鬼も角

プラクティカは更に修道院に対し、農民によりRKG 5.21による有する権利の保証、におい

よびます。RKG 5.21cと小さな箱を意味する希緊語で、

上の場合、教会の三祭日たるクリスト降誕、復活祭、

聖霊降臨的にさいし、RKG 5.21cに等の祭りを指

します。[小箱]の内容ですが、十一世紀の史料(5)

Důisky, Schutzkammern N. C. 23)によると、

バーベク(Garfischel), 鶏一羽,大麦一袋,オーディス・葡

萄酒半トロ(Cervus, halm, u½ playwright)となってい

ます。以上がプラクティカの末端の記述ですが、RKG 5.629に限っては他に、各農民はその支配するRKG 5.629

に限り、農民が領主に対し捧げる贈物を指

する生活のリズムを抱えることが出来ます。農民がその

保有地に対し持っていた所有権の法的性格について、

既にふれるところがありました。領主は、自身に収益を

賜らす最重の経済的基礎としての農民保有地につい

て、所農民同志の間での所有権の移動ならば鬼も角

(RKG 5.21c)他所領に所属する者への所有権の移動(RKG 5.21c

はかかる事態的存在を暗示)を、法的に阻止し得た等で

はかかる事情がなければ、現在にも阻止した答で

す。がそれにしても、農民所有の財産中最も安定してい

3月の服役日を示すのはRKG 5.21であり、一年二日となっ
蒙古国ウランバートル市ソルトサルム地方教育大学附属中学校

2022年秋期

新入生歓迎会

10月10日（月）午後6時

ソルトサルム地方教育大学附属中学校

参加者：新入生、保護者、教職員、関係者

内容：新入生歓迎、学校の紹介、保護者対策、学習計画の説明

場所：ソルトサルム地方教育大学附属中学校

参加者には、保護者を含め、学校の動向や今後の計画について解説する予定です。また、新入生向けの学習計画についても説明することになります。

学校の紹介は、これまでの歴史や文部省の認可の内容、学校の組織、設置目的、教育方針などについて説明する予定です。

保護者対策については、新入生の適応期、保護者の役割、エクステラ活動の意義、学力向上のためのアドバイスなどの内容を含む予定です。

学習計画については、各学年毎の目標、授業計画、学習方法、評価方法などを解説することになります。

参加者全員が学校の教育方針や活動内容を理解し、学校に期待を持っていただけることを願っています。
一橋論叢 第三十八巻 第三号

にそぞともこの種詳細な記録自体、農民の土地への束縛
を目的とするものであり、更にアゴ地方
トルコ人侵のため近隣の他所領に避難した所属農民に
に対する修道院の徴税請求（2122）等、土地への束縛を裏書
するいくつかの具體例にも缺けていません。それら
拘らず、イペヨン修道院のアゴティカの相互比較は、
ピザン後期の農村人口が実際には相当流動的だった事
を示します。この一三七年の四戸
中、二戸（60%）が在籍。この一三一一年の四戸
四戸の農家が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三四一年の四戸
中、三戸（75%）が在籍。この一三二一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三四年の四戸
中、三戸（75%）が在籍。この一三一一年の四戸

前に述べたように、この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸
に一戸（25%）が在籍。この一三一一年の四戸

ロン修道院のアラクティカを比較してみますと、息子や
娘が暮らす姿を消し去ったり、時には再び出現する事例に
出遺します。デルガーは、これら息子や娘の離村を、家
族の経済力が最もや家族員を変えられなくなったため、
と見、彼等はおそらく近隣の村や所領で日雇労務者、
召使、として日々の糧を得たろうこと。彼等の村落への
帰還の背後には、有利な財政相続発生の如きが考えられ
ったと考えられること。娘の離村には、隣村へのお嫁入りの場が多か
ったが、個々の家族構成員が移動している事例はアラク
ティカにおいても稀少であり、その結果デルガー
は、これら移動の内の場合に領主からの許可がとりつ
けられていると解釈できるかどうか疑問だ、と考えるに
至っています。一口に「土地への束縛」と言おう、現
実はかくも複雑を極めています。

四
以上の如き身分をもつ農奴の労働力を基盤とし、国
家から完全な財政的イニテートを附興された結果とし
て、かかる労働者の収益のすべてにあたるビンツ
のための農業労務者（Artjzeners, Agrarian）を収容する、
この土地の耕作は、一部無産・ロイカに依存する不共
に、一部農地保有者としての農民アイの賦役提供によ
ります。（1）所領の全部領域に散在して村落を結ばず
てたロイカ、及び小土地と共に、居住しています。こ
の農民保有地には領主所有的葡萄園（Dortheia）やか
の

271
以上の話からもお分かりのとおり、ビザンツの大所領・ビザンツ帝国における大地の問題は、国家から完全な財政上のイミュニティーを附与された小作を、"領主直農地"の一部で農民による小作が現実にも始んど存しなかったことの反映か、乃至前述の如きも存しなかったことを反映する。史料的性格に基づくものであり、従ってアルテッカに於いての如きイミュニティーのもの、本来国家よりの移譲の内人を記入せねばのが本来のたてままであったが故か。違反の解決はなお未刊の史料が将来刊行される既に委ねたいと思います。

以上五

駱・ビザンツ帝国における大地の所有の問題

小作された（農民と農民）500面
につき100面の割で評価される150面の二部から成っていたことを記しています。が、せい、イペロン修道院の六階のアレッカでは、前述の如く、領主から農民への小作が、従って農民による小作が、従って小作を意味する"cape"、"capea"、"capeis"、"capei"は唯粉撃場の言及されているに止まり、他のアレッカで、この小作に言及されるにすぎません。これもアレッカの記事は、領主直農地の一部で農民による小作が現実にも殆んと存しなかったことの反映か、乃至前述の如きも存しなかったことを反映する。史料的性格に基づくものであり、従ってアルテッカに於いての如きイミュニティーのもの、本来国家よりの移譲の内人を記入せねばのが本来のたてままであったが故か。違反の解決はなお未刊の史料が将来刊行される既に委ねたいと思います。

以上五

駱・ビザンツ帝国における大地の所有の問題
領主に指定されるとその収入の中でも、地租がその収入の一部を占めるに至っている。この地租は、領主が自分の世帯に対する戦時地税の一環として、農民に納めるべきものである。さらに、領主の指定を受けた収入に対する増税率を決定するためには、領主の指定の範囲を定めることになる。

このように、領主の指定を受けた収入に対する増税率を決定するためには、領主の指定の範囲を定めることになる。
事実十一世紀以降に所属の現存プラネターやの大部分では、財政上の役割を果たすが、いまだ完全な役割を果たすことがない。なぜなら、その部分が開発されていないためであるからである。もし開発されていれば、それなら十一世紀以前に、農民の所有地までは自由な土地所有権を保有し、その所有地を自由に使用することができる。つまり、大所領主の役割は、次のようなものである。大所領主は、その所有地を自由に使用することができるが、農民の役割は、その所有地を自由に使用することができる。しかし、大所領主は、その所有地を自由に使用することができる。
以降を以て作業が開始さればならなかったか、は以此上の如くであってます。そして恰もこの種「封建の土地所有」に見合う如く従来の国家体箇を変更させしめていった栄構的重要な要素、これこそブランデイカに現れた如き経済構造の大土地を、国家への軍事奉仕義務の代償として保有しめるものである。《九五四．四》

（本文稿は昭和二十三年五月十八日西洋史学会神戸大會での私の同じ題目報告の完全撮影に一部を加えたものであら、昭和三三年度科学研究所報の支給を受けて研究中。）

四への注デルゲはピザンツ大所領経済構造上同一のものとして西ヨーロッパのGrundeigentumを引き合

関してより詳細なのはペッサである。彼らは「ピザンツ大所領が西ヨーロッパ中世前期のヴァイナルグザ」（Les Villages de Haut Moyen Age occidental）と最大の類似を示すとする。